

「行橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る取組み効果・検証シート

担当課 指導室

基本目標(1) 人を惹きつける学びあふれるまち ～地方への新しい人の流れをつくる～							
(ア)教育							
主な重要業績評価指標 (KPI)	学校満足度調査「学校は楽しい・どちらかといえば楽しい」と回答した児童生徒の割合						
	積算方法	年度末に行う学校評価における基礎資料となる児童生徒アンケートから積算					
	基準値	H30年度 目標値	R1年度 目標値	R2年度 目標値	R3年度 目標値	R4年度 目標値	R5年度 目標値
	89% (H30年度)			90%	90%	90%	90%
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
				90%	90%	90%	
	目標値の変更						
KPI達成のために 行った事業(取り組み)	学校評価アンケートは年2回実施し、1回目と2回目の結果を比較することができます。普段の様子や教育相談等を実施し、不安等を解消できるように対応しました。また、必要に応じてカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとも連携しました。						
事業の今後の課題や今後 必要と考える取り組み	引き続き、満足度を高める取組と並行して、残り10%の児童生徒の不満とされる部分への対応が必要です。アンケートは、すべての児童生徒が対象であり、結果を受けて、課題把握と課題解決に向けて取組を充実させて行く必要があります。年2回のアンケートの実施を通して、個々の児童生徒の状況把握が可能ですので、教育相談等を通して、取組を充実させていきます。						
推進本部会議で出た意見等	特になし						
有識者会議での外部評価	(質)アンケートの回答率はどれくらいか？ (答)すべての児童生徒から回収できたわけではないが、回答率は96.3%。						

「行橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る取組み効果・検証シート

担当課 土木課

基本目標(1) 人を惹きつける学びあふれるまち ~地方への新しい人の流れをつくる~							
(イ)観光・イベント							
主な重要業績評価指標 (KPI)	長井浜公園 年間施設利用者数						
	積算方法	年間施設利用者から算出					
	基準値	H30年度 目標値	R1年度 目標値	R2年度 目標値	R3年度 目標値	R4年度 目標値	R5年度 目標値
	新規			12,000人	14,000人	15,000人	45,000人
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
				28,161人	39,041人	41,771人	
	目標値の変更	令和4年度実績より設定しました。					
KPI達成のために 行った事業(取り組み)	新規施設利用者獲得のために、新聞・テレビメディアを通じた広報活動を実施しました(TVCMや広報ポスターの作成・配布)。また、一年を通して様々なイベントを実施(キッズワークショップ(5月)、マリンアクティビティ(7~9月)、野外映画祭(9月)、ジェルキャンドル・フォトフレームワークショップ(1, 2月)、ケーキデコレーション教室(2, 3月))し、施設利用促進を図りました。その結果、目標値を達成することができました。						
事業の今後の課題や今後 必要と考える取り組み	来年度も、施設利用の促進に寄与する事業の実施等について指定管理者と協議していきます。						
推進本部会議で出た意見等	特になし						
有識者会議での外部評価	特になし						

「行橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る取組み効果・検証シート

担当課 商業観光課

基本目標(1) 人を惹きつける学びあふれるまち ～地方への新しい人の流れをつくる～							
(イ) 観光・イベント							
主な重要業績評価指標 (KPI)	サイクルステーションの設置数						
	積算方法	公共施設等へのサイクルステーションの新規の設置数					
	基準値	H30年度 目標値	R1年度 目標値	R2年度 目標値	R3年度 目標値	R4年度 目標値	R5年度 目標値
	新規			事業開始	5か所	0か所	2か所 (スタンド)
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
					5か所	0か所	
	目標値の変更	サイクルステーションの設置数 (サイクルスタンド設置箇所を含む)					
KPI達成のために 行った事業(取り組み)	R3に椿市地域交流センター、行橋赤レンガ館、守田菘洲旧居、行橋総合公園、長井浜公園にステーション(サイクルスタンド、空気入れ、工具、案内看板)を設置し、R4はサイクル観光を推進するためのサイクリングマップを作製し、ステーション設置箇所をPRするとともに、ステーションを活用したサイクルイベントも実施しました。						
事業の今後の課題や今後 必要と考える取り組み	サイクル観光の誘客促進のために、サイクルスタンドの設置数を公共施設で増設していきながら、県の補助事業等を活用して、民間施設への設置協力にも取り組んでいきます。またステーション、スタンド設置箇所のPRを継続して行います。						
推進本部会議で出た意見等	特になし						
有識者会議での外部評価	(質)PRはどのように行っているのか。 (答)高速道路のPAなどにパンフレットを配架するなどし、市外からの訪問客に向けたPRを行っている。						

「行橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る取組み効果・検証シート

担当課 スポーツ振興課

基本目標(1) 人を惹きつける学びあふれるまち ～地方への新しい人の流れをつくる～							
(イ) 観光・イベント							
主な重要業績評価指標 (KPI)	ビーチスポーツ・マリンスポーツを通しての集客人数						
	積算方法	ビーチバレー集客者数(大会通じて) マラソン参加者数 マラソン沿道応援者数 マラソンボランティアスタッフ数					
	基準値	H30年度 目標値	R1年度 目標値	R2年度 目標値	R3年度 目標値	R4年度 目標値	R5年度 目標値
	7,874人 (R1年度)			10,000人	10,000人	7,000人	7,000人
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
		8,535人	7,874人	0人	0人	3,904人	
	目標値の変更	令和4年度からは、ビーチバレーの開催を行わないため、ビーチバレーの集客見込数3000人を除いた7000人を目標値に設定します。					
	KPI達成のために 行った事業(取り組み)	新型コロナウイルス感染症対策を万全に行ったうえで、安全安心な運営を行うことで「ゆくはしシーサイドハーフマラソン2023」を開催できた。しかしながら、感染症への懸念から参加人数が例年より少なく、また沿道での応援の制限等により、集客数が従来より減少した。					
事業の今後の課題や今後 必要と考える取り組み	今後は、マラソン大会のみならず、様々なスポーツイベントを実施することで、市民スポーツの裾野拡大、健康増進、さらには地域の活性化に寄与できるよう、企画を立案したい。						
推進本部会議で出た意見等	特になし						
有識者会議での外部評価	特になし						

「行橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る取組み効果・検証シート

担当課 商業観光課

基本目標(1) 人を惹きつける学びあふれるまち ～地方への新しい人の流れをつくる～							
(イ) 観光・イベント							
主な重要業績評価指標 (KPI)	市の観光PRポータルサイトのアクセス数						
	積算方法	観光ポータルサイトのアクセス解析ツールを利用し、アクセス数を集計					
	基準値	H30年度 目標値	R1年度 目標値	R2年度 目標値	R3年度 目標値	R4年度 目標値	R5年度 目標値
	252,000PV (H30年度)			400,000PV	380,000PV	380,000PV	320,000PV
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
		252,000PV	355,200PV	360,819PV	288,497PV	299,989PV	
	目標値の変更						
KPI達成のために 行った事業(取り組み)	昨年度対比で11,492PVの増加となりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、上半期を中心にイベントの中止が続いたことで、閲覧数が伸びなかったと考えられます。福岡都市圏域等での観光PR出店を行って広報活動を実施し、昨年度末には市HPのリニューアルに伴い、観光PRポータルサイトも更新しました。						
事業の今後の課題や今後 必要と考える取り組み	観光PRポータルサイトの閲覧数を増加させるため、イベントや観光情報の掲載頻度、掲載方法を工夫し、効果的な発信に努めます。						
推進本部会議で出た意見等	特になし						
有識者会議での外部評価	<p>(質) R5年度の目標値を下げたのはなぜか。                      (答) 新型コロナウイルス感染症の影響も小さくなり、アクセス数の増加は見られるが、以前ほどのアクセス数にすぐに回復するとは見込めないと考え、まずは実現可能と思われる実績値に近い数値で目標値を設定した。なお、PRについては、福岡都市圏での観光PR活動、高速道路PAへのパンフレットの配架などを行っている。</p>						

「行橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る取組み効果・検証シート

担当課 総合政策課

基本目標(1) 人を惹きつける学びあふれるまち ～地方への新しい人の流れをつくる～							
(ウ)移住・定住							
主な重要業績評価指標 (KPI)	行橋市への移住者数(京築除く):累計195人(R2～R6)						
	積算方法	各年(4/1～3/31)の住民基本台帳ベースでの 転入数－転出					
	基準値	H30年度 目標値	R1年度 目標値	R2年度 目標値	R3年度 目標値	R4年度 目標値	R5年度 目標値
	39人 (H30年度)			39人	39人	39人	39人
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
				▲191人	▲68人	358人	
	目標値の変更						
KPI達成のために 行った事業(取り組み)	<p>(転入) (転出) (増減)</p> <p>【全国】 3,488人 2,946人 542人</p> <p>【京築除く】 2,683人 2,325人 358人</p> <p>全国の移住情報が掲載されているポータルサイトに掲載をしてもらった。東京交通会館内にあるふるさと回帰センターへ訪問し、行橋市の現状について説明し、移住希望者に対してのPRを依頼した。</p>						
事業の今後の課題や今後 必要と考える取り組み	<p>県や移住相談センター主催の移住イベントに積極的に参加したい。また、転出数を少なくするために、移住支援策だけでなく市民に対する支援策を検討していきたい。</p>						
推進本部会議で出た意見等	<p>(質)これだけ増加している原因として、自然増もあるのか。 (答)自然減ではあるが、それを大幅に超過する社会増があった。なお、358人の差引のうち約半数は外国人が占めているが、全体の転入出の差引なので、外国人の流入が多いというわけではないことを申し添える。</p> <p>福岡都市圏で人口が増加傾向にある一方で、北九州都市圏の人口は減少傾向にある。そのような中での人口増は評価すべき点である。</p>						
有識者会議での外部評価	<p>(質)外国人の流入が増えていると感じており、今後もその流れは続くと考え。しかしながら、外国人に優しいまちになっているかは疑問である。ルールやマナーなど教えられるようなものがあればいいと思う。その点についての対策は？ (答)多言語アプリを導入しており、その中でごみのルールなどを説明している。また、日本語教室で言葉の支援を行っているが、人の入れ替わりなどの課題もある。それらをフォローできるように努めていく。</p>						

「行橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る取組み効果・検証シート

担当課 農林水産課

基本目標(1) 人を惹きつける学びあふれるまち ～地方への新しい人の流れをつくる～							
(工) 農産物・水産物の開発・高付加価値化							
主な重要業績評価指標 (KPI)	新規就農者数						
	積算方法	(～R3)行橋市農業次世代人材投資資金交付要綱に基づく農業次世代人材投資資金(経営開始型)を受給した者の数(積算累計値) (R4～)行橋市新規就農者育成総合対策経営開始資金交付要綱に基づく新規就農者育成総合対策資金(経営開始型)を受給した者の数(積算累計値) ※第5次行橋市総合計画の目標値ベースを採用					
	基準値	H30年度 目標値	R1年度 目標値	R2年度 目標値	R3年度 目標値	R4年度 目標値	R5年度 目標値
	11人 (H30年度)			累計14人	累計18人	累計18人	累計18人
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
		累計11人	累計13人	累計16人	累計16人	累計17人	
	目標値の変更						
KPI達成のために 行った事業(取り組み)	給付金に対する相談は計7件(市:6件、普及センター経由:1件)ありましたが、交付要件を満たす新規就農者が1名いました。 また、担い手部会が主催となり開催される関係機構(県・各市町村・JA)と連携した「就農・就業相談会in京築」では、10名の相談を受け付けましたが、直接の新規就農にまではつながりませんでした。就農希望者の意欲と理解を促進することになりました。						
事業の今後の課題や今後 必要と考える取り組み	受給には、現状と目標(5年後)を定めた就農計画を提出し市からの認定を受ける必要があります。目標年に、年間農業所得300万程度(給付金を除く)、年間総労働時間2,000時間程度を認定基準としており、目標の達成及び資金交付終了後の就農のステップアップが難しいものとなっています。今後も就農計画の目標達成に向け、市・県・JA等のサポートを引き続き行っていきます。						
推進本部会議で出た意見等	特になし						
有識者会議での外部評価	特になし						

「行橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る取組み効果・検証シート

担当課 文化課

基本目標(1) 人を惹きつける学びあふれるまち ～地方への新しい人の流れをつくる～							
(オ) まちなか活性化							
主な重要業績評価指標 (KPI)	行橋公募彫刻展への応募件数及びイベント参加者数						
	積算方法	国際公募彫刻展に対する応募件数 イベント参加者数					
	基準値	H30年度 目標値	R1年度 目標値	R2年度 目標値	R3年度 目標値	R4年度 目標値	R5年度 目標値
	イベント参加者数 3,644人 (H30年度)			参加3,783人	参加1,400人	応募44件(R3 実績値より確 定) 参加3,100人	
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
		参加3,644人	応募32件 参加1,235人	応募32件 参加442人	応募44件 イベント参加者 796人	応募44件 イベント参加者 394名	
	目標値の変更						
KPI達成のために 行った事業(取り組み)	本市で初めての取組みであり、多額の事業費を要してきたため、事業を進めるにあたり、賛成・反対様々な意見があった。本市の知名度向上や本格的な芸術作品に直接触れることができ、一定の成果があったが、R4年度をもって事業を終了することになった。また、事業内容についても、計画していた関連イベントを中止し、最小限の規模にとどめるに至った。						
事業の今後の課題や今後必要と考える取り組み	多額の予算を投入してきた事業のため、事業終了と共に過去8年間の成果と課題を整理し、今後の文化事業の方針を検討していく必要がある。						
推進本部会議で出た意見等	特になし						
有識者会議での外部評価	特になし						



「行橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る取組み効果・検証シート

担当課 生涯学習課

基本目標(1) 人を惹きつける学びあふれるまち ～地方への新しい人の流れをつくる～							
(オ) まちなか活性化							
主な重要業績評価指標 (KPI)	図書館(複合施設)の利用客数						
	積算方法	来館者数					
	基準値	H30年度 目標値	R1年度 目標値	R2年度 目標値	R3年度 目標値	R4年度 目標値	R5年度 目標値
	利用者数 190,406人 (R2年度)			150,000人	来館者 200,000人 図書館貸出者 116,000人 託児施設利用者 3,000人	来館者 200,000人 図書館貸出者 116,000人 託児施設利用者 3,000人	来館者 231,000人 図書館貸出者 133,000人 託児施設利用者 3,900人
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
		図書館 85,989人 視聴覚 14,598人	図書館 58,047人 視聴覚10, 020人	190,406人	来館者 179,854人 図書館貸出 者 108,840人 託児施設利 用者	来館者 228,066人 図書館貸出 者 132,947人 託児施設利用者 3,828人	
	目標値の変更	リブリオに移転してからの図書館部分とそれ以外の利用者がわかるように目標を設定し、目標値については、令和2年度実績より設定しました。					
KPI達成のために 行った事業(取り組み)	コロナ禍ではありましたが、感染対策に留意することにより、休館することなく開館を維持出来ました。それにより、自主事業等を実行でき、また、リブリオ行橋に来館したくなるような情報発信をすることにより、目標値を達成できました。						
事業の今後の課題や今後 必要と考える取り組み	来年度も、リブリオ行橋利用者の満足につながるような事業を計画し、さまざまな情報を発信することにより、目標値を達成できるよう取り組みます。						
推進本部会議で出た意見等	特になし						
有識者会議での外部評価	特になし						

「行橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る取組み効果・検証シート

担当課 総合政策課

基本目標(1) 人を惹きつける学びあふれるまち ～地方への新しい人の流れをつくる～							
(カ) 就労支援							
主な重要業績評価指標 (KPI)	ワーク・ライフ・バランスの啓発(セミナー回数・参加人数)						
	積算方法	セミナー回数・参加人数の累計値					
	基準値	H30年度 目標値	R1年度 目標値	R2年度 目標値	R3年度 目標値	R4年度 目標値	R5年度 目標値
	11回・278人 (H30年度)			累計17回 ・470人	累計16回 ・371人 (2回・20人)	累計16回 ・371人 (2回・20人)	累計19回・470 人(4回・80人)
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
		累計11回 278人	累計13 回 333人	累計14回 351人	累計14回・ 351人 (0回・0人)	累計15回・390人 (1回・39人)	
	目標値の変更						
	KPI達成のために 行った事業(取り組み)	女性活躍推進の観点より、生活と仕事の両立を可能にする働き方改革推進などの観点から講演を1回実施した。50名募集に対して、39名の参加となり参加定員には届かなかったが、参加者からの評判は大変好評であった。					
事業の今後の課題や今 後必要と考える取り組み	ワーク・ライフ・バランスセミナーのみならず、どの講座も定員に対して参加者が少ないといった現状になっている。市民のニーズを的確に把握し、どのような内容で講座を行うかや広報の仕方などを工夫していきたい。						
推進本部会議で出た意見等	特になし						
有識者会議での外部評価	(質)ターゲット(就業中の方なのか、主婦の方なのか)と開催日時の整合性が取れているか疑問がある。 (答)現在は広く募集をかけているため、今後は、テーマに合わせて開催日時を調整するよう進めていく。						

「行橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る取組み効果・検証シート

担当課 指導室

基本目標(2) 子ども育みを支えるまち ～若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる～							
(ア)教育							
主な重要業績評価指標 (KPI)	学校満足度調査「学校は安全に学べる環境であると思う・どちらかと言えばそう思う」と回答した保護者の割合						
	積算方法	年度末に行う学校評価における基礎資料となる保護者アンケート結果から積算					
	基準値	H30年度 目標値	R1年度 目標値	R2年度 目標値	R3年度 目標値	R4年度 目標値	R5年度 目標値
	88% (H30年度)			90%	90%	90%	90%
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
		88%	90%	90%	89%	90%	
	目標値の変更						
	KPI達成のために 行った事業(取り組み)	年2回「学校評価アンケート」を保護者に実施し、保護者対象にアンケートを実施しました。回答率をあげるために児童生徒が使用しているipadを活用したり、保護者用(安全・安心)メールを活用して、保護者への周知を行いました。					
事業の今後の課題や今後 必要と考える取り組み	スクールカウンセラーなどの相談できる環境を整えてほしいとの意見もありましたので、スクールカウンセラーの活用内容等について今後、保護者に周知する必要があると考えます。						
推進本部会議で出た意見等	特になし						
有識者会議での外部評価	特になし						

「行橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る取組み効果・検証シート

担当課 指導室

基本目標(2) 子ども育みを支えるまち ～若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる～							
(ア)教育							
主な重要業績評価指標 (KPI)	いじめ・不登校等の問題行動の予防プログラムの実践校						
	積算方法	市内17校中の実施校数					
	基準値	H30年度 目標値	R1年度 目標値	R2年度 目標値	R3年度 目標値	R4年度 目標値	R5年度 目標値
	8校 (H30年度)			10校	17校	17校	17校
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
		8校	10校	10校	17校	17校	
	目標値の変更	いじめや不登校などの問題行動の予防・対処法を取り上げた研修は年度内で複数回行われており、積算の対象が増えました。					
KPI達成のために 行った事業(取り組み)	市主催の管理職研修や担当者研修を定期的に行い、いじめ問題等へ対応に関する研修会を実施しました。また、QU調査を年2回実施し、児童生徒の生活満足度等の調査を行いました。調査実施後は、大学教授やスクールカウンセラー等の専門家を活用した研修も実施しました。						
事業の今後の課題や今後 必要と考える取り組み	いじめ問題等は早期発見・早期対応が必要です。今後の研修内容を充実するとともに、外部の専門家等を積極的に活用し、未然防止及び早期発見に取り組んで参ります。						
推進本部会議で出た意見等	特になし						
有識者会議での外部評価	特になし						

「行橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る取組み効果・検証シート

担当課 総合政策課

基本目標(2) 子ども育みを支えるまち ～若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる～							
(イ)結婚							
主な重要業績評価指標 (KPI)	出会いのイベント参加者						
	積算方法	出会いのイベント参加者の累計値					
	基準値	H30年度 目標値	R1年度 目標値	R2年度 目標値	R3年度 目標値	R4年度 目標値	R5年度 目標値
	5回・375人 (H30年度)			50人	100人	20人	50人
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
		累計5回 375人	累計6回 431人	0人	0人	47人	
	目標値の変更						
	KPI達成のために 行った事業(取り組み)	第一生命保険株式会社と共催でイベントを開催した。					
事業の今後の課題や今後 必要と考える取り組み	令和5年度より、福岡県出会い応援団体に登録したので、県出会い・結婚応援事務局と協力し積極的にイベントを開催したい。						
推進本部会議で出た意見等	特になし						
有識者会議での外部評価	(質)PRはどのように行っているのか。 (答)あかい糸めーるの登録者にメール配信を行ったほか、市報に掲載し、PRを行った。 (質)年齢層はどのようなものか。 (答)25歳から39歳までの募集ではあるが、40歳代の方からも問合せはあるので、今後拡充させるか検討していきたい。						

「行橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る取組み効果・検証シート

担当課 子ども支援課

基本目標(2) 子ども育みを支えるまち ～若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる～							
(ウ) 出産・子育て							
主な重要業績評価指標 (KPI)	3月1日時点での待機児童数						
	積算方法	各年度3月1日時点での待機児童数					
	基準値	H30年度 目標値	R1年度 目標値	R2年度 目標値	R3年度 目標値	R4年度 目標値	R5年度 目標値
	130人 (H31.3.31時点)			50人	90人	90人	90人
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
				160人	164人	163人	
	目標値の変更						
KPI達成のために 行った事業(取り組み)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の希望園以外で空きが園への提案を行いました。待機児童数はあまり減少していません。</li> <li>・R2年度は施設を4箇所増やしました。</li> <li>・R3年度は施設の増築を2箇所実施し、定員増を図りました。</li> <li>・R4年度は2園で定員を増やし、合わせて80名増員しています。</li> </ul>						
事業の今後の課題や今後 必要と考える取り組み	年齢毎に必要な保育士が異なり、0歳児には3人につき保育士1人の配置となります。施設整備により定員が増えても、保育士がいなければ受け入れることにつながらないので、保育士の処遇改善を図るための施策を今後も続けていきます。						
推進本部会議で出た意見等	特になし						
有識者会議での外部評価	(質) 待機児童の数はあまり減っていないように思う。施設数は増えているのに、保育士の数が増えていないという状況に要因があると考え、保育士の確保について具体的な施策はあるのか。 (答) 実績値は3月1日時点の値であり、4月1日時点では1人まで解消されている。また、希望する園に空きがなく、待機している児童も含まれている。保育士の処遇については、ICTを用いた業務量の負担減や、市独自で処遇手当を支給し、処遇の改善に努めているものの、保育士を目指す方自体が減少している状況にあるため、保育補助員を活用し、将来的に保育士を確保できるよう取り組んでいる。						

「行橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る取組み効果・検証シート

担当課 子ども支援課

基本目標(2) 子ども育みを支えるまち ～若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる～							
(ウ) 出産・子育て							
主な重要業績評価指標 (KPI)	新規の子どもの居場所(遊び場)設置数						
	積算方法	子どもの遊び場の確保数(新規設置)					
	基準値	H30年度 目標値	R1年度 目標値	R2年度 目標値	R3年度 目標値	R4年度 目標値	R5年度 目標値
	新規			累計1か所	0か所	累計2か所	累計2か所
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
			累計1か所	0か所	0か所		
	目標値の変更						
	KPI達成のために 行った事業(取り組み)	令和4年度は、子ども支援課にて未就学児の親子を対象としたイベントを実施しました。					
事業の今後の課題や今後 必要と考える取り組み	子育て支援拠点の設置について、引き続き園への声掛けを行っていますが、保育士の配置が必要であるため、保育士確保についての課題も発生します。また、他課での子どもの遊び場設置を含め、目標値を2箇所と設定します。						
推進本部会議で出た意見等	特になし						
有識者会議での外部評価	特になし						

「行橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る取組み効果・検証シート

担当課 子ども支援課

基本目標(2) 子ども育みを支えるまち ～若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる～							
(ウ) 出産・子育て							
主な重要業績評価指標 (KPI)	ファミリーサポートセンター登録者数						
	積算方法	子育ての支援を受けたい会員と子育ての支援を行いたい会員の登録者数の総計					
	基準値	H30年度 目標値	R1年度 目標値	R2年度 目標値	R3年度 目標値	R4年度 目標値	R5年度 目標値
	212人 (H30年度)	/		累計500名	累計450名	累計550名	累計550名
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
		累計212名	累計376名	累計401名	累計478名	累計511名	
	目標値の変更						
KPI達成のために 行った事業(取組み)	R4年度新規の登録者は76名(受けたい:66名、行いたい10名)支援を受ける会員、行う会員ともに利用した際はアンケートをとっており、前年度に引き続き満足度は高いです。また支援を行う会員に対しては、毎回報告書を作成してもらっています。健診等でチラシを配布する、市報に載せるといった周知活動を行いました。また、令和4年度から1時間無料券を配布し子育て支援の充実を図りました。						
事業の今後の課題や今後 必要と考える取組み	支援を行う会員は、104名の登録がありますが、活動できる会員は20名ほどしかいません。今後会員数を増やすにあたって、支援を受ける会員が増えた際に対応ができないことがないように、日中対応が可能な会員を増やしていく必要があります。そのため、仕事を退職した人への声掛けをより積極的に行うよう検討しています。						
推進本部会議で出た意見等	特になし						
有識者会議での外部評価	特になし						



「行橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る取組み効果・検証シート

担当課 子ども支援課

基本目標(2) 子ども育みを支えるまち ～若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる～							
(ウ) 出産・子育て							
主な重要業績評価指標 (KPI)	乳児家庭全戸訪問件数の割合						
	積算方法	出生数に対する訪問数の割合					
	基準値	H30年度 目標値	R1年度 目標値	R2年度 目標値	R3年度 目標値	R4年度 目標値	R5年度 目標値
	99% (H30年度)			100%	99%	100%	100%
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
		99%	102%	84%	95.2%	100.0%	
	目標値の変更						
KPI達成のために 行った事業(取り組み)	新型コロナウイルス感染症の状況を鑑みながらも、全対象戸数505件中504件(残りの1件については、里帰り出産であったため、住所地の自治体に委託)を訪問しました。全戸訪問アンケートにおいて95.4%の方が訪問を受けてよかったと回答し、話を聞いてもらった49.2%、気持ちが楽になった30.7%との回答がありました。						
事業の今後の課題や今後 必要と考える取り組み	R5年度よりアプリを用い、母へのアンケートが可能となり、訪問前に母の思いを把握した上で訪問できるようになりました。今後は事前情報を生かして、より母に寄り添った対応を心がけるようにする。						
推進本部会議で出た意見等	特になし						
有識者会議での外部評価	(質)100%訪問を達成されているにもかかわらず、訪問は1回きりである。育児においてはその後も困りごとが多いため、訪問したことを後にもつなげてほしい。もう少し訪問数を増やせないのか。 (答)訪問は1回であるが、その後も4か月健診を実施しているほか、困りごとがあればいつでも相談するよう呼びかけを行っている。ぜひ利用していただきたい。						

「行橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る取組み効果・検証シート

担当課 子ども支援課  
学校管理課

基本目標(2) 子ども育みを支えるまち ～若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる～

(エ)就労支援

主な重要業績評価指標 (KPI)	子どもの預かり制度の利用者数						
	積算方法	アンファン利用者、児童クラブ利用者 アンファン: R2 991人 R3 200人 R4 200人 R5 700人 R6 700人 児童クラブ: R2 13,008人 R3 13,488人 R4 12,000人 R5 12,000人 R6 12,000人					
	基準値	H30年度 目標値	R1年度 目標値	R2年度 目標値	R3年度 目標値	R4年度 目標値	R5年度 目標値
	12,472人 (H30年度)			13,999人	13,688人	12,200人	12,700人
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
		12,472人	13,105人	11,724人	11,071人	11,206人	
	目標値の変更	アンファン利用者数R5 700人、R6 700人に変更 児童クラブ利用者数R4 12,000人、R5 12,000人、R6 12,000人に変更					
	KPI達成のために 行った事業(取り組み)	【子ども支援課】342人 新規で入園する児童に対してチラシを配布し、制度の周知を行いました。			【学校管理課】10,864人 25施設の運用を民間に委託しており、ノウハウを活用、サービスの向上を図りました。令和4年度も新たな体験型のイベントを実施するなど取組を行いました。		
	事業の今後の課題や今後 必要と考える取り組み	【子ども支援課】 施設利用の際は予約を前日までにし、医師の診断書が必要となるため、当日の急な利用は難しいです。また、令和5年度から利用料が無償化になり登録者数、利用者数が増加しています。しかし、職員の人数も限られており受け入れが不可能な場合もあります。職員の配置を見直し、募集をしたりして受け入れ体制を整えていきたいと考えております。			【学校管理課】 ・毎年、利用者アンケートを行っています。受託業者によりサービス内容に差があるため、今後も引き続き同程度のサービスを提供し、利用者の満足度の向上を図ります。 ・令和4年度は利用希望者が多く待機児童が発生することもあったため、待機児童の解消を検討していく必要があります。		
	推進本部会議で出た意見等	特になし					
有識者会議での外部評価	(質) 有料の頃は、金額面との折り合いがつかず、なかなか利用に踏み込めなかったため、無償化はありがたいが、申請にあたり診断書が必要であるなど申請が複雑な印象である。もっと簡素化できないか。 (答) 施設内には4つの部屋があり、それぞれ感染症ごとに区割りを行う必要があるため、どうしても診断書が必要になる。職員の配置の問題や、広域連携の検討など、利用者の利便性を高めていきたい。						

「行橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る取組み効果・検証シート

担当課 商業観光課

基本目標(3) 学びが仕事へ、仕事子どもたちの学びへつながるまち ～地方における安定した雇用を創出する～							
(イ) 就労・創業支援							
主な重要業績評価指標 (KPI)	起業相談件数						
	積算方法	市役所及び商工会議所への相談件数の合計(累計値)					
	基準値	H30年度 目標値	R1年度 目標値	R2年度 目標値	R3年度 目標値	R4年度 目標値	R5年度 目標値
	69件 (H30年度)			60件 (初年度)	累計120件 (内60件)	累計180件 (内60件)	累計100件 (内40件)
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
		累計69件	累計71件	9件 (初年度)	累計25件 (内16件)	累計61件 (内27件)	
	目標値の変更						
	KPI達成のために 行った事業(取り組み)	新型コロナウイルス感染症の影響が小さくなったことから、相談件数は令和3年度より増加しており、相談者61人のうち27人が起業しました。相談窓口を市役所商業観光課及び行橋商工会議所に設けており、伴走型の経営指導や企業相談等を、商工会議所の経営指導員5名、補助員2名の計7名で対応しています。(平日8:30～17:00)また、起業セミナーを開催し、参加者に対し相談受付の周知を行いました。					
事業の今後の課題や今後 必要と考える取り組み	セミナーの開催及び相談受付の周知方法が難しいことが課題です。(現時点では市報とホームページとセミナーでの紹介のみ) 今後は周知方法を増やすとともに、国や県が行っているよろず支援拠点事業などとも連携して、相談数増加につながる取り組みが必要であると考えます。						
推進本部会議で出た意見等	特になし						
有識者会議での外部評価	特になし						

「行橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る取組み効果・検証シート

担当課 農林水産課・商業観光課

基本目標(3) 学びが仕事へ、仕事子どもたちの学びへつながるまち ～地方における安定した雇用を創出する～							
(ウ)農産物・水産物の開発・高付加価値化							
主な重要業績評価指標 (KPI)	農林水産業の新規の従事者数						
	積算方法	「ゆくはしブランド」の商品に携わる新規の従事者数(累計値)					
	基準値	H30年度 目標値	R1年度 目標値	R2年度 目標値	R3年度 目標値	R4年度 目標値	R5年度 目標値
	15人 (H30年度)			累計16人 (年度内1人)	累計16人 (年度内1人)	累計16人 (年度内1人)	累計16人 (年度内1人)
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
		累計15人	累計15人	累計15人	累計15人 (年度内0人)	累計15人 (年度内0人)	
	目標値の変更						
	KPI達成のために 行った事業(取り組み)	特産品のPR活動として、福岡都市圏域等において、自治体ブース出店時にPRを行いました。事業者の雇用を増加させることには繋がっていませんでした。					
事業の今後の課題や今後 必要と考える取り組み	観光誘客を増加させる取り組みや特産品をPRする取り組みを継続しながら、特産品の売上を増加させるような、販売促進につながる取り組みが必要だと考えます。						
推進本部会議で出た意見等	特になし						
有識者会議での外部評価	(質)「ゆくはしブランド」とはどのようなものか。 (答)H28にブランド化を試みた行橋美夜古ジェラートやいちじくソース、鰻の混ぜご飯等9種類の加工品のことであるが、売れ行きが芳しくないため、加工業者との折り合いがつかなくなり、現在は販売終了している。販路の拡大が今後の課題と考える。						

「行橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る取組み効果・検証シート

担当課 農林水産課

基本目標(3) 学びが仕事へ、仕事子どもたちの学びへつながるまち ～地方における安定した雇用を創出する～							
(ウ) 農産物・水産物の開発・高付加価値化							
主な重要業績評価指標 (KPI)	行橋市魚市場の取扱量						
	積算方法	公設卸売市場の年間取扱量 第5次行橋市総合計画の目標値ベースを採用					
	基準値	H30年度 目標値	R1年度 目標値	R2年度 目標値	R3年度 目標値	R4年度 目標値	R5年度 目標値
	1,484トン (H30年度)			1,850トン	1,400トン	1,500トン	1,000トン
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
		1,484トン	1,838トン	1,140トン	1,415トン	833トン	
	目標値の変更	取扱量が激減したことによる影響は短期間で回復は見込めないため、目標値を1,000トンとする。					
	KPI達成のために 行った事業(取り組み)	魚市場の毎月の報告で実績を出している。新型コロナウイルス感染症の影響で取引が減少し、物価上昇等の影響もあり、今年度は取扱量が激減した。					
事業の今後の課題や今後 必要と考える取り組み	全国的に不漁が続いているが、取扱可能なものにおいては、引き続き販路拡大により取扱量を増やしていきたいと考えている。						
推進本部会議で出た意見等	特になし						
有識者会議での外部評価	特になし						

「行橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る取組み効果・検証シート

担当課 商業観光課・農林水産課

基本目標(3) 学びが仕事へ、仕事子どもたちの学びへつながるまち ～地方における安定した雇用を創出する～							
(ウ)農産物・水産物の開発・高付加価値化							
主な重要業績評価指標 (KPI)	水産加工品(牡蠣)の売上						
	積算方法	加工品開発した牡蠣の年間の売上高					
	基準値	H30年度 目標値	R1年度 目標値	R2年度 目標値	R3年度 目標値	R4年度 目標値	R5年度 目標値
	600千円 (H30年度)			1,000千円	800千円	1,000千円	2,000千円
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
		600千円	800千円	560千円	1,700千円	0千円	
	目標値の変更	(R5年度より)カキ小屋での牡蠣加工品の年間売上高					
	KPI達成のために 行った事業(取り組み)	開発した牡蠣加工品については、製造コストの上昇や販売数量が想定を下回ったため、継続することが困難になり、R3をもって販売を終了しており、R4は実績がありません。R5は目標値を変更して、カキ小屋の牡蠣加工品の売上を増加させるように取り組みます。					
事業の今後の課題や今後必要と考える取り組み	目標値を変更するにあたって、「豊前海一粒カキ」と同様に牡蠣加工品の売上高も増加させるため、ホームページでの情報発信やメディアでの紹介等、PR活動を積極的に実施します。						
推進本部会議で出た意見等	特になし						
有識者会議での外部評価	特になし						

「行橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る取組み効果・検証シート

担当課

秘書課

基本目標(4) 地域を支えあい、交流しあうまち ～時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに地域と地域を連携する～

(ウ) 共助社会

		市ホームページ等の広報閲覧数					
積算方法		①市ホームページ閲覧数の月平均 ②市内からのホームページアクセス割合 ③行橋市公式Facebook、Instagramのフォロワー数、LINEの登録者数					
基準値		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
		目標値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
主な重要業績評価指標 (KPI)	新規			①235,000PV ②市内割合8% ③累計6,000件	①406,270PV ②市内割合11.97% ③累計18,375件	①460,000PV ③累計30,000件	①700,000PV ③累計33,000件
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
			①433,309PV ②市内割合10.56% ③累計14,206件	①444,685PV ③累計25,893件	①649,631PV ③累計31,074件		
	目標値の変更	市内からのアクセス割合を出すことが不可能だったため、令和3年度実績値から削除しています。					
	KPI達成のために行った事業(取り組み)	①市公式ホームページのリニューアルを行い、調べやすく、見やすいものになるようにしました。 ③市内のお店やイベントを取材し、Instagramに掲載しました。また、ホームページのリニューアルに伴い、ホームページ記事の更新をLINEでもお知らせできる機能が追加され、登録者数の増加につながりました。					
	事業の今後の課題や今後必要と考える取り組み	市公式ホームページがリニューアルし、見やすさは改善したが、中身の記事ページの内容は作成者の技量により質のばらつきがあることが課題として挙げられます。そのため、CMSを使って記事の更新をする職員全員の意識を高めるため、継続的に指導、周知をしていく必要があります。また、ホームページとLINEやInstagramなどのSNSとの連携を活用し、情報へのアクセスが容易にできる仕組みをつくっていきます。					
推進本部会議で出た意見等	特になし						
有識者会議での外部評価	<p>(質) ホームページには目次があった方がわかりやすいと感じた。また、効果的な情報発信のため、職員の意識を高める以外に、専門の部署を設けるとよいのではないかと思うが、いかがか。</p> <p>(答) 今年の2月にホームページをリニューアルした際、情報発信をホームページを中心とすることとした。また、ホームページの目次であるサイトマップはあるものの、なかなか見たい情報にたどり着けないという意見もあるため、今後も改善に努める。なお、今年の4月には市報のリニューアルも行ったが、職員配置の問題もあるため、専門の部署を設けることはせず、全ての職員が広報担当という意識づけを行い、より分かりやすい情報を発信するようにしている。今後も職員のスキルアップを図っていく。</p> <p>(意) 災害の情報になかなかたどり着けなかった経験がある。なるべくトップページの上部に設けるなど、改善をお願いしたい。</p>						

「行橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る取組み効果・検証シート

担当課 総合政策課

基本目標(4) 地域を支えあい、交流しあうまち ～時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに地域と地域を連携する～							
(ウ) 共助社会							
主な重要業績評価指標 (KPI)	多言語対応型生活・住環境アプリダウンロード数						
	積算方法	R1に開発した多言語対応型生活・住環境アプリのダウンロード数 (日本人・外国人問わず)					
	基準値	H30年度 目標値	R1年度 目標値	R2年度 目標値	R3年度 目標値	R4年度 目標値	R5年度 目標値
	新規			100件	累計209 件 (50件)	累計1321件 (100件)	累計1600件 (175件)
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
				累計159件	累計1221 件 (1062件)	累計1425件 (204件)	
	目標値の変更						
	KPI達成のために 行った事業(取り組み)	投稿機能として「まちの危険箇所通報」「みんなの情報交換掲示板」「アプリ機能追加機能」を追加し市HPや市報で広報した。					
事業の今後の課題や今後 必要と考える取り組み	投稿機能はまだ投稿されていないため、他市の実績を参考に利用者を増やしたい。アプリにはスタンプラリーやパスポート機能もあるため、コンテンツを充実させてダウンロード数を増やしていきたい。						
推進本部会議で出た意見等	特になし						
有識者会議での外部評価	(質) アプリストアで見つけることができなかった。転入時に勧めるとあるが、既存の市民はどうやってダウンロードしたらよいのか。 (答) アプリストアにあるものの、アルファベットで「yukunavi」と検索しないとヒットしないため、改善を検討する。						



「行橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る取組み効果・検証シート

担当課 介護保険課

基本目標(4) 地域を支えあい、交流しあうまち ～時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに地域と地域を連携する～							
(ウ) 共助社会							
主な重要業績評価指標 (KPI)	見守りの連携企業数						
	積算方法	見守りの企業連携数の累計値					
	基準値	H30年度 目標値	R1年度 目標値	R2年度 目標値	R3年度 目標値	R4年度 目標値	R5年度 目標値
	9団体 (H30年度)			累計 11団体 (内1団)	累計 12団体 (内1団体)	累計 13団体 (内2団体)	累計 15団体 (内1団体)
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
		累計 9団体	累計 10団体	累計 11団体 (内1団)	累計 11団体 (内0団体)	累計 14団体 (内3団体)	
	目標値の変更						
KPI達成のために 行った事業(取り組み)	明治安田生命保険相互会社 北九州支社 行橋営業所、三井住友海上火災保険株式会社 法人営業第三課を窓口にも、県を仲介とし見守りの協定依頼をし締結しました。また、介護、医療分野でいろいろと協力頂いている(株)アステムと見守りについてもご協力頂ける話が整い、協定を締結することができました。						
事業の今後の課題や今後 必要と考える取り組み	独居高齢者、特に男性の独居の方が増えていることもあり、今後も見守り活動の必要性は高いものと思われます。そのため、今年度についても、企業等に働きかけを実施し、協定を結ぶよう努めて参ります。						
推進本部会議で出た意見等	特になし						
有識者会議での外部評価	特になし						

「行橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る取組み効果・検証シート

担当課 生涯学習課

基本目標(4) 地域を支えあい、交流しあうまち ～時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに地域と地域を連携する～							
(ウ)共助社会							
主な重要業績評価指標 (KPI)	樺市地域交流センター 年間施設利用者数						
	積算方法	公民館機能部分の利用者数と小売コーナー及びカフェの利用者数の合計値					
	基準値	H30年度 目標値	R1年度 目標値	R2年度 目標値	R3年度 目標値	R4年度 目標値	R5年度 目標値
	20,612人 (H30年度)			24,000人	21,400人	21,400人	21,400人
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
		20,612人	23,872人	7,457人	12,449人	16,388人	
	目標値の変更						
KPI達成のために 行った事業(取り組み)	令和3年度より指定管理者制度を導入し、地域住民により組織された法人が管理することとなった。その結果、クリスマスイルミネーション、節分イベント、カフェメニューの開発等、指定管理者制度のメリットを生かす施設の管理運営ができた。 利用者数については、前年度より増加したが、コロナ禍の影響により目標値には及ばなかった。						
事業の今後の課題や今後 必要と考える取り組み	指定管理者制度の導入から3年目を迎えるが、指導・助言を要することもあるため、今後は自立した管理運営を行えるようこれまで同様に連携を図っていく。						
推進本部会議で出た意見等	特になし						
有識者会議での外部評価	特になし						

「行橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る取組み効果・検証シート

担当課 防災危機管理室

基本目標(4) 地域を支えあい、交流しあうまち ～時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに地域と地域を連携する～							
(ウ)共助社会							
主な重要業績評価指標 (KPI)	防災知識の普及啓発						
	積算方法	年間での啓発活動開催回数の累計値					
	基準値	H30年度 目標値	R1年度 目標値	R2年度 目標値	R3年度 目標値	R4年度 目標値	R5年度 目標値
	新規			20回	20回	20回	20回
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
				10回	14回	7回	
	目標値の変更						
KPI達成のために 行った事業(取り組み)	感染対策をしっかりと行ったうえで出前講座の開催などを行ったが、前年度の実績を超えられなかった。出前講座においては、平時や発災前に準備できることを特に意識して伝えようとしている。具体的には、災害用グッズの備蓄や避難判断のための情報収集が適切にできることが重要であることから、インターネットやSNS、テレビのdボタンなど様々な方法で情報収集できることを伝えており、今後においても引き続き継続していく。福岡県が新規に開発した防災用アプリのまもるくんについて広報に努める。						
事業の今後の課題や今後 必要と考える取り組み	新型コロナウイルスが5類になったが、感染症対策には注意しつつ、各種団体に対して幅広く防災講和等の機会を提供したい。その中で特に市内の小中学校に対して、防災意識向上を図るための対応を強化していく。						
推進本部会議で出た意見等	特になし						
有識者会議での外部評価	特になし						